

Hem21 NEWS

公益財団法人
ひょうご震災記念21世紀研究機構
ニュース

「Hem21」は、ひょうご震災記念21世紀研究機構の英語表記である
Hyogo Earthquake Memorial 21st Century Research Instituteの略称です。

VOL. **68** 平成30年
(2018) 3月

CONTENTS

- ①～③ 兵庫自治学会総会・研究発表大会を開催
- ③ 「こころのケア」シンポジウムを開催
- ④ 南あわじ市福良地区での事前復興のためのケーススタディ
- ⑤ HAT神戸掲示板
- ⑥～⑧ 人と防災未来センター MiRAi

兵庫自治学会の総会および研究発表大会を、平成29年12月10日に兵庫県立大学神戸商科キャンパスで開催し、180人が参加しました。大会テーマは「文化力豊かな魅力ある地域社会の創造に向けて」。午前は総会の後、研究発表大会の全体会などを行い、午後からは4つの分科会に分かれ会員等による研究発表がありました。

来賓あいさつ

全体会開会に当たって金澤和夫兵庫県副知事から来賓あいさつがあり、「学会は、地方自治の現場で行われていることを地域の人たちがどう受け止め、どう反応しているかを、客観的に言葉で互いに語り合い、知恵や知見を交換することで、各地域の地方自治をより高いものにしていくという志のもとスタートした。今年の分科会でも、公務員だけでなく地域の実践家の方が発表を担われているのは、学会の成長を物語るものである」と述べられました。

また、今回の大会テーマとなっている、文化力を生かしてそれぞれの地域振興につなげることについて、「文化とは必ずしも芸術と重なり合うような狭い意味



兵庫自治学会総会・研究発表大会を開催

にとどまらず、私たちが日頃から何気なく身に付いたものとして自然体で行動していることそのものが文化である。そういった意味の文化は私たちの地域社会の至る所にあり、それを文化力としてうまく引き出せば地域創生政策の成功につながる。ぜひ、この大会が参加者にとって実り多いものとなるように」と話されました。

平成28年度兵庫自治学会賞、研究発表大会優秀発表者紹介

昨年度の研究発表大会の分科会発表者のうち、最も優秀な論文に対して贈られる兵庫自治学会賞受賞者、分科会の優秀発表者を紹介しました。

当日は、兵庫自治学会賞を受賞された特定非営利活動法人創エネ神戸の山田通裕さんが出席されました。



全体会(基調講演)

午前中の全体会では、劇作家・演出家の平田オリザ氏が「新しいひろばをつくる—賢治の祈り、東北の

祈り」と題して基調講演されました。

平田氏は、宮沢賢治が『農民芸術概論綱要』で、「これからは農民一人一人が芸術的な感性を持たなければならない。」と述べたことを挙げ、「東京一極集中の経済原理に基づかない、文化の力による地方創生が重要であることを100年前に気付いていた」と指摘しました。これは震災を経験した現代のわれわれにも通じることであり、「人間の心に根差した政策をとらなければ、日本の地方の多くは滅びていくだろう」と強調されました。

かつての地方には、隣近所で子どもたちを見守るような「無意識のセーフティネット」があり、神話や伝統芸能、祭りといった文化的時間・空間が多くありました。しかし、近年は地方にも経済原理が強く浸透し、無駄を許容できない社会となったため、無意識のセーフティネットは崩壊しつつあります。

そこで求められるのが「文化による社会包摂だ」と平田氏は指摘しました。今の日本は人が孤立しやすい

社会になっています。公共文化施設を使った文化・スポーツ・ボランティア活動などによって、そうした人々と社会との接点(居場所や出番)をつくることで、最終的には社会のリスクやコストを軽減させる必要があります。

まちづくりに関しても、地方が経済政策だけでは潤わなくなった今、「文化によって自分たちに付加価値を付けることで、東京やグローバル資本にのみ込まれない『文化の自己決定能力』を高めることが、今の地方に求められている」と主張されました。



分科会

午後からは産業・自治振興、福祉・防災、地域づくりⅠ、地域づくりⅡの4つの分科会に分かれ、18人の会員等(グループを含む)が日頃の研究成果を発表し、活発な議論が交わされました。分科会では、学識者や行政の幹部職員がコーディネーター等を務め、研究活動を深めるためのアドバイスをするとともに、テーマに沿った問題提起を行い、会場参加者を含めたディスカッションを展開しました。

行政職員のほか、地域で活動を続けておられる方、大学生などからも発表があり、地域課題や行政政策へ



の関心の高さと広がりを感じられました。今後の発表者・参加者の主体的な政策形成活動につながる事が期待されます。

分科会／テーマ	学識コーディネーター	行政アドバイザー
第1分科会 産業・自治振興	関西学院大学経済学部 教授 前田 高志	兵庫県企画県民部 政策調整局長 小川 佳宏
第2分科会 福祉・防災	神戸親和女子大学 客員教授 成清 美治	兵庫県健康福祉部 社会福祉局長 尾山 健司
第3分科会 地域づくりⅠ	関西学院大学法学部 教授 山下 淳	兵庫県企画県民部 地域創生局長 濱西 喜生
第4分科会 地域づくりⅡ	兵庫県立大学地域創造機構 教授 畑 正夫	兵庫県企画県民部 ビジョン局長 坂本 哲也

交流会

分科会終了後、大学食堂にて交流会が開催され、

学会役員、分科会コーディネーター、発表者、会員等が参加し、意見交換を行うなどネットワークづくりにつながる交流を深めました。

兵庫自治学会では、県政および県内市町行政の振興と発展のために、行政や地域に関するさまざまな課題について研究し、課題解決のための政策形成能力の向上と、組織や職種を超えた幅広いネットワークづくりを目指して活動しています。自らの視野を広げるために、一歩踏み出してチャレンジしてみませんか？

■会員になるには

年会費2,000円。次のいずれかに該当する方ならどなたでもご入会いただけます。

兵庫県職員、県内市町職員、県内に在住または在勤の学識者・NPO職員・本会の目的に賛同される個人
(申し込み・問い合わせ)

兵庫自治学会事務局〔(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構 研究戦略センター内〕

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2 人と防災未来センター東館6階

E-mail : gakujuetsu@dri.ne.jp 兵庫自治学会ホームページ <http://hapsa.net/>

TEL : 078-262-5570 FAX : 078-262-5593

「こころのケア」シンポジウムを開催

兵庫県こころのケアセンターの日頃の研究成果の発表と、「現場を変えるいじめの科学」についての講演からなる「こころのケア」シンポジウムを、平成29年11月16日、同センターで開催しました。センター開設以来毎年実施しており、今回で14回目を迎えました。自治体職員や教育・保健・福祉関係業務従事者など約140人に参加いただきました。

開会に当たり、加藤寛センター長が、シンポジウム開催の趣旨を含め、あいさつをしました。

その後、山本沙弥香主任研究員が「職場いじめ(パワーハラスメント)の実態と予防のあり方について」を報告しました。職場いじめの被害状況の調査報告と、職場いじめによりどのような影響があるかの研究報告、これまでの調査結果から考えられる予防策の提言を行いました。

次に、和久田学大阪大学大学院連合小児発達学研究所特任講師に、「現場を変えるいじめの科学」について講演をしていただきました。

この講演では、まずいじめの定義付けをし、いじめが引き起こす加害者への悪影響、被害者への悪影響、傍観者への悪影響を説明していただきました。次に和久田先生が所属される(公社)子どもの発達科学研究

所で日本で初めて科学的に学校風土を計測する尺度を開発し、この尺度により学校風土と不登校やいじめとの関係を証明できたとの報告がありました。

さらに、いじめを予防するには、まず大人が変わり、加害者にならない、傍観者にならない、加害者のモデルにならない、そのためには正しい知識と包括的で具体的な取り組みが必要との提言がなされました。次に子どもたちには一番目に学校風土の改善、二番目に早期発見、早期支援、三番目にそれでもいじめが起きたときには加害者、被害者、傍観者への適切なアプローチが必要であるとの解説がありました。

時間いっぱいまで熱い講演をしていただき、実りの多いシンポジウムとなりました。



南あわじ市福良地区での事前復興のためのケーススタディ



研究員 磯村 和樹

はじめに

「南海トラフ地震に対する復興グランドデザインと事前復興計画のあり方」研究会では、事前復興の取り組みの実際の自治体への導入手法を検討するために、南海トラフ地震で兵庫県最高の津波高が予測される南あわじ市福良地区で事前復興のためのケーススタディを本年度から行ってきた。本稿ではその実施内容や成果について紹介させていただく。(研究会の他の研究内容等については *VOL.61 平成29年1月号参照)

兵庫県南あわじ市福良地区

兵庫県南あわじ市福良地区は旧南淡町の中心部で、南あわじ市の南西沿岸部に位置する地区である。南海トラフ地震発生から58分後に8.1mの最高津波高が予測されている。鳴門海峡のうずしお観潮船や淡路人形浄瑠璃、3年養殖トラフグ(淡路島3年とらふぐ)などが名物となっている。かつて1万人を超えた人口は現在5,000人ほどとなり、高齢化・人口減少が進んでいる。地区に22ある自治会が自主防災組織も兼ねており、専門家とも連携しながら積極的に防災まちづくりを進めている。



福良地区の位置図(白丸部・Googleより引用)

住民の声を聞く模型ワークショップの開催

ケーススタディでは大きく2つのことに取り組んだ。まず1つ目は、復興時の目標(グランドデザイン)を探るために住民から地域のライフスタイルを聞き取る取り組みである。これは東日本大震災後の復興の際に、復興の方向性を共有するのが難しかったという課題があり、共有を事前から行うことで解決を図ろうというものである。神戸大学、京都大学等と連携して浸水域のまち並みを再現した1/1000のジオラマ模型を作り、それを公民館に1週間展示し、来場者を対象に福良での現在の生活や思い出など1,200個ほどの証言を聞き取った。また、それらの証言を復興グランドデザインとしていかに整理

するか検討を行った。

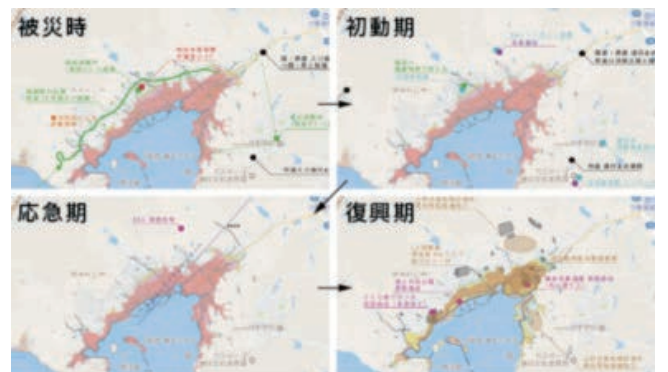


福良地区での模型ワークショップの様子

被災後の土地利用計画案の検討

2つ目は、被災後の土地利用計画案を被災直後から復興期まで、時系列に検討しておく取り組みである。

復興は大きく、被災してから避難する初動期、仮設のまちで暮らす応急期、新たなまちをつくる復興期と進んでいくが、東日本などの復興の際に各時期の土地利用をうまく調整できず、被災後のまちが不便になってしまったという課題があった。本ケーススタディは被災後の土地利用をあらかじめ考えておくことで、その解決を図ろうというものである。南あわじ市役所の関係各部署と協力し、被災想定等をもとに被災後の仮設用地や瓦礫置場、復興後のまちの姿などの検討を行った。ただし、1年のケーススタディでは復興後のまちの姿を考えきれず、課題が残った。



検討した土地利用計画のイメージ

今後の課題

本年度で研究会は終わるが、今後は京都大学、神戸大学などのグループが中心となり残った課題を解決するために福良で活動を続けていく予定である。上記の本年度の成果は来年度の公開シンポジウムで詳しく報告する予定であり、その際はぜひ足を運んでいただきたい。

兵庫県立美術館

特別展「小磯良平と吉原治良」展

阪神間が生んだ2人の巨匠、小磯良平(1903-1988)と吉原治良(1905-1972)。彼らはほぼ同時代を地理的にきわめて近い位置において制作してきたにもかかわらず、その画業を同時に評価する機会が従来ほとんどありませんでした。本展では、彼らの作品を時代ごとに並置し、それぞれの画業の再確認とともに、その対照性と類似性を明らかにします。小磯と吉原の油彩画約160点に加え、資料類もあわせて展示します。

■会期=3月24日(土)~5月27日(日)
■観覧料=一般1,300円、大学生900円、70歳以上650円、高校生以下無料

県美プレミアム

特集「Back to 1918:10年ひとむかしと人は言う」

「10年ひとむかし」といわれるように、英語にもdecade=10年という言い方があります。かように洋の東西を問わず、10年という時間の幅はひとつのまとまりとして自然に意識されるものようです。本展は、2008年、1998年と、10年ごとに時間をさかのぼり、その年に生まれた作品やその年の出来事に関連のある作品を紹介し、その年の出来事を反映した作品もあれば、同時代の動きからは超然としている作品もあるでしょう。中には、どうしてこの作品がこの年に関連付けられているの?と不思議に思われるものもあるかもしれません。ぜひ当館のコレクションとともに10年ごとの時間旅行をお楽しみください。

■会期=6月24日(日)まで
■観覧料=一般500円、大学生400円、70歳以上250円、高校生以下無料



小磯良平(自画像)1927年
油彩・布 東京藝術大学蔵



吉原治良(黒い帽子の自画像)
1928年頃 油彩・布
大阪新美術館建設準備室蔵



高松次郎《脚立の紐》(1963-1985年)



大岩オスカール《www.com》(2013年)©大岩オスカール

◎休館日=月曜(ただし4月30日[月・休]は開館、5月1日[火]は休館)
◎開館時間=10時~18時(特別展開催中の金曜・土曜は20時まで)
※入場は閉館の30分前まで
TEL 078-262-0901(代) <https://www.artm.pref.hyogo.jp/>

JICA関西

◆食べることから始める国際協力! JICA関西食堂の月替りエスニック料理

JICA関西1階の食堂(カフェテリア方式)は、どなたでもご利用できます。完全禁煙で、安心して料理を楽しめ、子供椅子もご用意していますので、お子様連れも歓迎です。毎月の月替りエスニック料理もご好評いただいております!ぜひ、お気軽にお立ち寄りください。

メニューの詳細と写真については、こちら→ <http://www.jica.go.jp/kansai/office/restaurant/index.html>

■営業時間=(昼)11時半から14時まで (夜)17時半から21時まで
※各終了30分前ラストオーダー
■定休日=年中無休(年末年始を除く。)

◎問い合わせ

JICA関西(独立行政法人国際協力機構関西国際センター) 総務課
TEL 078-261-0346 FAX 078-261-0342
その他、詳細はJICA関西ホームページをチェック!
→ <http://www.jica.go.jp/kansai/>

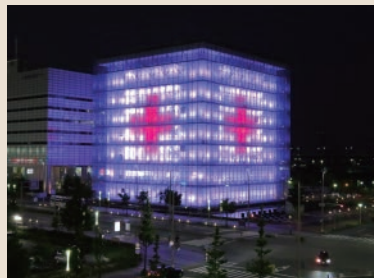


写真は2月のモンゴル料理

日本赤十字社 兵庫県支部

活動資金にご協力をお願いします ~5月は赤十字運動月間です~

日本赤十字社では、5月を「赤十字運動月間」とし、赤十字活動への参加と活動資金へのご協力を広く呼び掛けています。皆さまからお寄せいただいた資金は、災害への備えをはじめ、皆さまのいのちと健康を守る活動に生かされています。



赤十字レッドライトアッププロジェクト
(協力:人と防災未来センター)

運動月間中は、皆さまの地域の赤十字奉仕団や自治会、婦人会などを通じて、活動資金へのご協力をお願いしています。

■郵便局・ゆうちょ銀行からもご協力いただけます
口座記号番号 01110-0-1136
口座加入者名 日本赤十字社兵庫県支部
※窓口で取り扱いの場合、振込手数料は無料です

◎問い合わせ

TEL 078-241-8921

日本赤十字社 兵庫県支部
Japanese Red Cross Society

思いに色を、カタチを与える

写真集・詩集・自費出版の
お問い合わせは

神戸新聞総合印刷
神戸新聞総合出版センター

<http://www.kobpen-printing.co.jp/>

東京、福岡で「県外巡回展示」を開催

阪神・淡路大震災の経験と教訓を全国へ発信するため、震災から23年を迎えた1月17日(水)を含む期間に東京都(東京臨海広域防災公園そなエリア、東京消防庁消防博物館)、福岡県(福岡市消防局福岡市民防災センター)の計3カ所で県外巡回展示を開催しました。

パネルやタッチパネルモニターを活用し、震災被害や復旧・復興状況を写真や映像、グラフデータなどの資料で紹介。人と防災未来センターで通常上映している震災発生の瞬間の再現映像作品「5:46の衝撃」のダイジェスト版の上映なども行いました。震災から20年以上が経過し、また、東京、福岡とも被災地から離れた地域であることから、なかなか興味を持っていただけないのではないかと心配もありましたが、足を止め、パネルに見入る人が多く見られました。

3施設総計で約3万人の皆さまに来場いただき、巡回展を見て神戸の人と防災未来センターに来館された方もいました。福岡市民防災センターからは、「当時の状況を知らない世代にも震災を風化させずに十分に災害の怖さについて伝えることができた」との声をいただいております。記憶の風化が進む中、震災を改めて思い返すとともに、現在も多発している自然災害や、今後発生が予想されている巨大地震災害への備えを進めるきっかけとなったのではないかと思います。

また、同会場では1月14日(日)に「防災とボランティアの日」イベントを開催。当センターからの提供プログラムとして、「夏休み防災未来学校」で人気のワークショップ、「ストローだけでじょうぶな建物をつくろう」を実施しました。楽しみながら耐震構造を考えることができる工作プログラムで、福岡では初開催ということもあり、家族連れなどにとっても好評でした。



東京臨海広域防災公園そなエリアの様子

「国際防災・人道支援フォーラム2018」を開催

「『国難』となる広域巨大災害に備える－海外災害の事例に学ぶ－」をテーマとした「国際防災・人道支援フォーラム2018」が、1月23日(火)に神戸市内で開催されました。

基調講演では、甲斐達朗上級研究員が、これまでの災害医療活動の経験などを踏まえ、今後検討すべき課題として、海外医療チームの受け入れ態勢の確立や医療と福祉の連携の重要性などを指摘しました。

また、パネルディスカッションでは、河田恵昭センター長の司会により、国内外の専門家を交え、最近発生した海外の大きな災害における被害の様相や初動対応時に見られた想定外の事象への対応策が報告されるとともに、広域巨大災害による被害の軽減に向けた方策について活発な意見交換が行われました。

【概要】

■日 時：平成30(2018)年1月23日(火)13:30～16:30

■場 所：神戸ポートピアホテル「偕楽の間」

■参加者：約200人

＜基調講演＞

テーマ：「海外の災害現場で見た災害医療の問題点 ～海外医療救援から国内の災害医療を考える～」

甲斐達朗(大阪府済生会千里病院 顧問、人と防災未来センター上級研究員)

＜パネルディスカッション＞

テーマ：「海外の災害事例から学ぶ、日本の防災対策の推進」

ファシリテーター：河田恵昭(人と防災未来センター長)

パネリスト：スポン・ラタナナキン(タイ王国 内務省防災局災害管理専門官)

ジャン・プリサード・ダカール(ネパール連邦民主共和国 内務省防災局次長)

神内 圭(国際協力機構(JICA)国際緊急援助隊事務局次長)

加藤 寛(兵庫県こころのケアセンター長)



「災害メモリアルアクションKOBЕ 2018」報告会を実施

人と防災未来センターでは、教訓を次世代に伝えることを主な目的として「災害メモリアルKOBЕ(2006～2015)」を実施してきました。平成27年度からは、先の10年を見据えながら、「災害メモリアルアクションKOBЕ」という取り組みを開始しています。

これは、学生の防災・減災活動を通じて、災害教訓を「活かす」ことができる人材を育成するとともに、防災の取り組みをいろいろな地域・世代へ広げていく事例をまとめ、今後の被害を減らすことに寄与することを目指しています。

本年度も、「KOBЕのこぼれ」をテーマに、グループ単位で参加希望した学生の7グループが阪神・淡路大震災で被災した地域等に入り、インタビュー、アンケート、交流事業などを企画し、活動しました。

この成果を今後の防災に「活かす」ための事例として、1月6日(土)午前、人と防災未来センターで活動報告をしました。

各グループの活動報告に続いて、公開サロンでは、自分たちの活動について、いかなる方法であれば伝えたいことが伝わるのか、語りや体験学習など具体的な方法も踏まえながら考えました。それとともに、「伝わった」と手応えが感じられるのはどんなときなのかを共有し、受け手との関係についても意見交換を実施しました。

【参加グループ】(司会：松蔭高等学校 放送部)

兵庫県立舞子高校

国立明石工業高等専門学校 D-PRO135°(明石高専防災団)3年生チーム

国立明石工業高等専門学校 D-PRO135°(明石高専防災団)4年生チーム

神戸学院大学 現代社会学部 社会防災学科 安富ゼミ

兵庫県立大学「ほっとKOBЕ」

関西大学社会安全学部 近藤研究室 チームCREDO

関西大学社会安全学部 近藤研究室 チームSKH



グラフィック



活動報告風景



公開サロン

(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構

阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2

観覧案内・予約 / TEL 078-262-5050 <http://www.dri.ne.jp/>

開館時間	9時30分～17時30分(入館は16時30分まで)		
	※7月～9月は9時30分～18時(入館は17時まで)		
入館料金	大人	大学生	高校生/小・中学生
	600円(450円)	450円(350円)	無料
	[障がい者]		
	大人	大学生	高校生/小・中学生
	300円(100円)	200円(50円)	無料
	[70歳以上の高齢者] 300円(200円)		

※()は20人以上の団体料金

※毎月17日(休館日の場合は翌18日)は入館無料

休館日 毎週月曜(月曜が祝日の場合は翌平日)、12月31日と1月1日
※ゴールデンウィーク期間中(4月29日から5月5日まで)は無休
※資料室の開室日についてはホームページでご確認ください

交通

鉄道

- ・阪神電鉄「岩屋」駅、「春日野道」駅から徒歩約10分
- ・JR「灘」駅南口から徒歩12分
- ・阪急電鉄「王子公園」駅西口から徒歩約20分

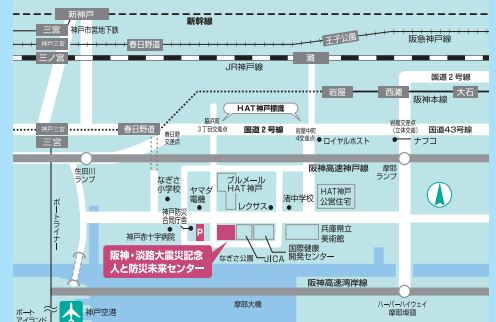
バス

- ・三宮駅から約15分

車

- ・阪神高速道路神戸線「生田川」ランプから約8分
- ・阪神高速道路神戸線「摩耶」ランプから約4分
- ・阪急・阪神・JR「三宮」駅から約10分

●有料駐車場あり ●バス待機所(予約制/無料)あり



平成29年度1.17防災未来賞「ぼうさい甲子園」表彰式・発表会を実施

当機構が兵庫県・毎日新聞社と共催し、学校や地域で取り組む防災教育・活動を顕彰する1.17防災未来賞「ぼうさい甲子園」の表彰式・発表会を、1月7日(日)に兵庫県公館で実施しました。

今回は、全国各地から130校の応募があり、特別賞を含めて33校が受賞されました。

グランプリに選ばれたのは、「小学生の部」の阿南市立津乃峰小学校(徳島県)です。1年生から6年生まで学校ぐるみで体系的な防災活動を行っています。地域全体の防災避難マップを作成し、各家庭に配布することにより地域住民の防災意識を高める活動を行い、地元住民の学校防災教育への理解が深まり、協力支援体制ができたことが評価され、昨年度も小学生の部のぼうさい大賞を受賞しています。本年度は、活動が一過性なものとならないよう、新たに児童による保育所での出前授業を行うほか、避難マップをより実効性の高いものに改良するなど、さまざまな創意工夫を行い、活動を発展させているところが高く評価されました。

式典のオープニングでは、兵庫県立長田高等学校音楽部の皆さんが「TOMORROW」「上を向いて歩こう」「前へ」「映画ソングメドレー」を美しく優しい歌声で披露、表彰式の後、兵庫県立芦屋高等学校放送部による司会で、グランプリ、ぼうさい大賞、優秀賞を受賞した学校・団体がそれぞれの活動内容を報告しました。満席の会場は、熱心に聞き入る参加者たちで活気にあふれていました。

また、兵庫県内の小、中、高校生を対象に行われた「防災力強化県民運動ポスターコンクール」の表彰式も併せて実施しました。



受賞校

グランプリ

- 阿南市立津乃峰小学校(徳島県)

ぼうさい大賞

- 高知市立南海中学校(高知県)
- 兵庫県立山崎高等学校(兵庫県)
- 静岡大学教育学部 藤井基貴研究室(静岡県)

優秀賞

- 埼玉県立日高特別支援学校(埼玉県)
- 印南町立印南中学校3年生(和歌山県)
- 和歌山県立熊野高等学校 Kumanoサポーターズリーダー(和歌山県)
- 関西大学社会安全学部 近藤研究室(大阪府)

奨励賞

- 西尾市立一色中部小学校(愛知県)
- 西尾市立白浜小学校(愛知県)
- 四万十町立興津中学校(高知県)
- 黒潮町立佐賀中学校(高知県)
- 兵庫県立尼崎小田高等学校 普通科 看護医療・健康類型(兵庫県)
- 高知県立須崎高等学校(高知県)
- 愛知工科大学 板宮研究室(愛知県)

はばタン賞

- 御船町立滝尾小学校(熊本県)
- 甲佐町立白旗小学校(熊本県)
- いわき市立江名中学校(福島県)

だいじょうぶ賞

- こどもプロジェクト1・2・3(徳島県)
- 大阪市立鶴見橋中学校(大阪府)
- 徳島県立那賀高等学校(徳島県)
- 高知大学防災すけっと隊(高知大学公認防災サークル) 耕活プロジェクトチーム(高知県)

津波ぼうさい賞

- 沖縄県立泡瀬特別支援学校(沖縄県)

教科アイデア賞

- 田辺市立新庄中学校(和歌山県)
- 千葉県立東金特別支援学校(千葉県)

フロンティア賞

- 尼崎市立大島小学校(兵庫県)
- 鳴門市撫養小学校5年生(徳島県)
- 目黒星美学園中学校(東京都)
- 知多市立旭南中学校(愛知県)
- 大阪府立堺工科大学 定時制の課程(大阪府)

継続こそ力賞

- 能登町立小木中学校(石川県)
- 徳島市津田中学校 防災学習倶楽部(徳島県)
- 盈進中学高等学校(広島県)



Hem21 NEWS
vol.68

平成30年3月発行

(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構
〒651-0073
神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2(人と防災未来センター)
<http://www.hemri21.jp/>

当機構は、以下の組織で構成しています。

●管理部

TEL 078-262-5580
FAX 078-262-5587

●研究戦略センター

▶研究調査部
TEL 078-262-5570
FAX 078-262-5593

●人と防災未来センター

TEL 078-262-5050
FAX 078-262-5055

▶学術交流部

TEL 078-262-5713
FAX 078-262-5122

●こころのケアセンター

〒651-0073
神戸市中央区脇浜海岸通1-3-2
TEL 078-200-3010
FAX 078-200-3017

ニュースレターに関するご意見・ご感想を機構までお寄せください